

情報化によってどのような職業が必要となるか

A-3班

1. 目的と背景

目的

今後貢献できる職業を知り、またなくなっていく職業についても、どのように携われるか考えていくため。
またそれらによる社会の変化によって、経済への影響についても考え、情報化とどのように向き合うかを提言するため。

背景

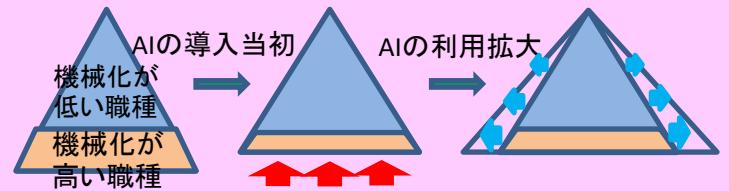
情報化社会に移り変わっている現代、多くの仕事はAIなどによって奪われつつあるのが現状であり仕事の価値についてあらゆるところで議論されている。そのことについて自分なりに考察して将来の展望を示すべく取り組む。

4. まとめ

これからは決められた枠の中で仕事をするのではなく、自分の個性を作り上げそれを生かした仕事を選び、働いていくことが大切になる。

今後の展望

数年後AIによって仕事が増え、それに伴い従事者の割合も増えていく。



2. 材料と方法

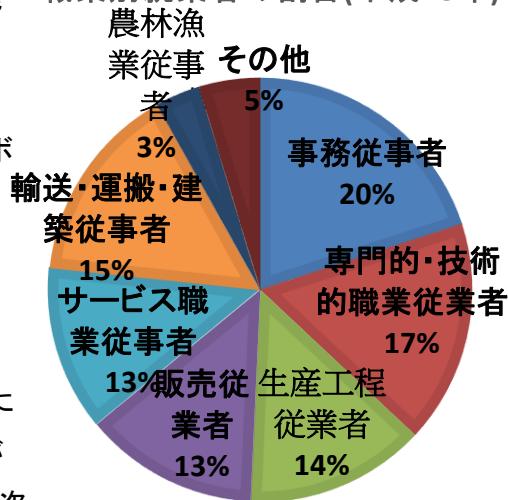
本文は (10.5p : MS明朝)

野村総合研究所(NRI) 未来開発センターは2015年オックスフォード大学のマイケルオズボーン准教授らと共同開発し601種類のAIやロボットに代替される確率を計算した。結果10年~20年後の日本人労働人口は約49%代替されると発表された。

現在の職業従業者は右図のようになる。右図のことから第三次産業が7割以上を占めており、次いで第二次産業、第一次産業となっている。

そこで、NRIから失われやすい職業を職業別の割合に分け、自分たちで将来のグラフを考えてみることにした。

職業別就業者の割合(平成28年)



<研究 20年後の職業従業者の割合>

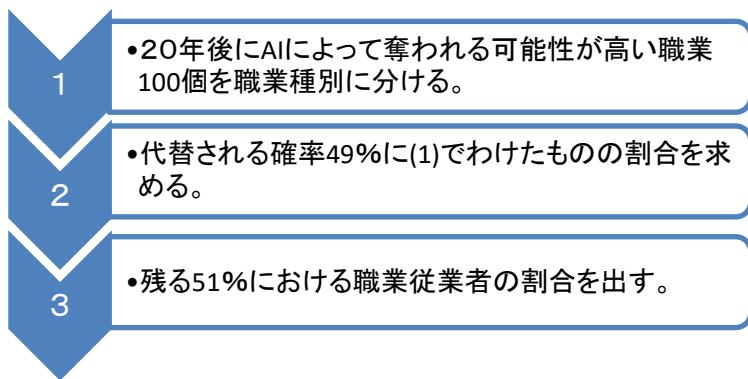


表: 20年後にAIによって奪われる可能性が高い職業

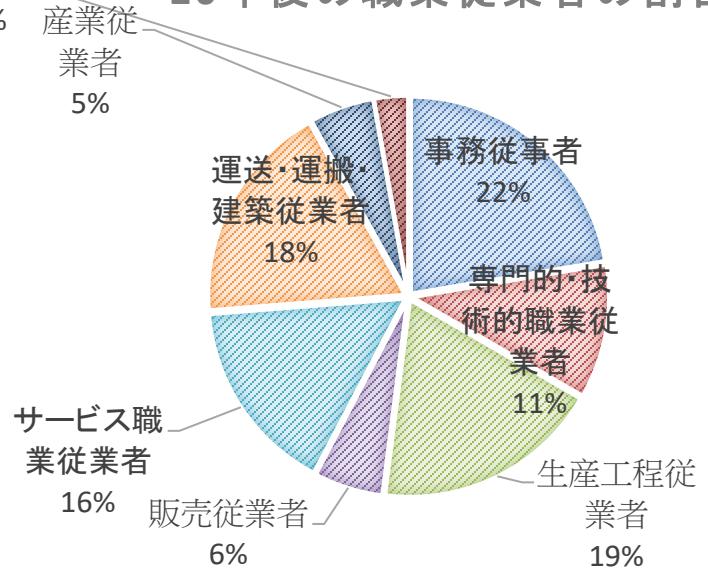
事務	専門	生産	販売	サービス	輸送; 建築	農林水産	その他	合計
15	21	22	7	20	8	0	7	100

3. 結果・考察

結果

<研究の結果のグラフ>

20年後の職業従業者の割合予想



研究より28年度のわたしたちが予想したものを比べると以下のことが分かる。

- ・割合が減少しているのは専門的・技術的職業従業者、販売従業者、サービス職業従業者、その他であった。
- ・その中でも販売従業者の割合が著しく減っている。
- ・割合が増加しているのは事務従事者、生産工程従業者、輸送運搬・建築従業者、農林水産業従業者であった。

考察

- ・販売従業者の割合が著しく減少していることから、AI、ロボットなどによって販売業が代替されると考える。
- ・工場などによる生産作業はAI、ロボットなどによって代替される可能性が高いが人にしか制作出来ないものは代替される可能性が低いと考える。
- ・現在、AIによって職種が奪われようとしているが、AIが人間の仕事を助けるのと同じように、逆に人間がAIを助けるとき気が来ると考えるため、AIによって新たに生み出される職種もあると考える。